

注目された米国の二つのイベントを通過。今度が経済ファンダメンタルズに目が再び向くことになるが、先行き鈍化の懸念を高める指標が出ている。したがって、日本株は需給悪化材料も重なり軟調が予想される。これに対して、債券相場は安定した展開が当面続こう

今週は、米国のFOMC会合、国内設備投資動向、国際商品市況についての分析を取り上げた。

市場の動き (8/12 ~ 8/16)

お盆休みの期間で、市場参加者が少なく、売買は低調が継続。国内的には材料が少なく、注目材料は、米国の連邦公開市場委員会(FOMC)での金融政策決定とSEC(証券取引委員会)への決算宣誓書提出だった。

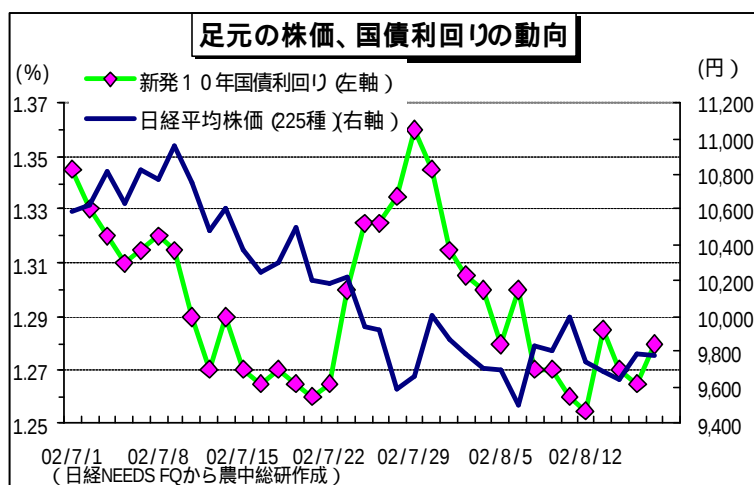
結果は、FOMCの政策スタンスは、「景気配慮型」へ転換されたものの、利下げ自体は見送り。失望感が無いわけではなかったが、利下げ期待が急低下していたこともあり、影響は限定的。

また、宣誓書提出を求められた947社中、8月14日に692社が期限を迎えた。このうち、8月18日現在、Qwest Communicationsなど合計7社の未提出となっている模様だが、市場では概ね順調に提出が終わったという評価であり、安心感が生まれた。

このようにイベントは通過し、かつ米国企業の決算等の個別好材料を好感して、米国株式相場は底固く推移した。

しかし、米国の経済指標は景気停滞の懸念を示すものが続出。自動車を除く7月全米小売売上の伸

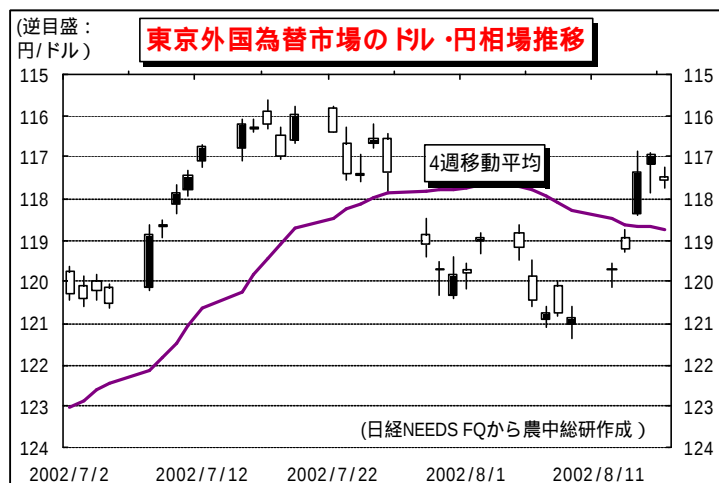
びが前月比 +0.2%に低下し、大手チェーンの週次小売売上も減少と発表。また、ミシガン大学消費者信頼感指数が将来指数の低下を主因に低下。また、フィラデルフィア連銀指数も低下した。市場の先行き不安は経済のファンダメンタルズに方向を変えることとなった。



米国経済の先行き不安を材料にドルが軟調。ドル円相場は前週の120円台もの動きから、ニューヨーク外為市場では一時、116円台前半まで円が上昇した。

東京株式市場は、前述の米国のFOMCと宣誓書提出期限を前に買いが手控えられとともに、円高が売り材料となり、3日続落となったが、米国株値の戻りを受けて、8月15日(木)は反発。16日(金)も小動きで終わった。

債券相場は、前週に続き世界的な景気先行き不安や米国等の海外債券高、日銀の一段の量的緩和期待が買い材料となり、堅調な展開が続いた。



無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。taguchi@nochuri.co.jp

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

Q2/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

14日(火)には、債券先物が年初来高値を付けるとともに、現物では新発5年物が最低利回りを更新したが、その後は高値警戒感もあり、小口の売りに押される展開となった。10年国債利回りも1.2%台後半で推移したが、長期ゾーンの上値は重かった。

なお、S & P社がペイオフ全面解禁延期(発表日:16日)と小泉改革の遅れ(発表日:19日)に関する評価のレポートを発表した。

また、これまで低下をたどってきた短期市場金利は全般的には横ばい・一休みという動きだったが、資金余剰感は強く、T B O Rユーロ円金利は16日(金)には週初の0.0792%から16日(金)には0.0767%に低下した。

業種別株価指数の変動(上位から下位へ)

業種別変化率	2002/08/2 株価	2002/07/26 株価	前週比
電気・ガス業	635.56	622.96	2.0%
鉱業	298.28	294.26	1.4%
陸運業	1207.12	1,201.83	0.4%
倉庫・運輸関連業	867.59	867.06	0.1%
保険業	570.77	572.36	-0.3%
石油・石炭製品	857.23	861.14	-0.5%
卸売業	476.67	479.39	-0.6%
金属製品	730.01	734.89	-0.7%
建設業	479.55	483.27	-0.8%
銀行業	198.94	200.64	-0.8%
水産・農林業	269.61	272.03	-0.9%
機械	604.99	611.68	-1.1%
小売業	721.28	729.81	-1.2%
電気機器	1527.51	1,547.37	-1.3%
繊維製品	411.78	417.54	-1.4%
その他製品	1453.93	1,476.24	-1.5%
食料品	607.18	616.98	-1.6%
医薬品	1371.22	1,395.07	-1.7%
サービス業	1050.22	1,068.70	-1.7%
化学	740.95	754.57	-1.8%
その他金融業	745.85	760.28	-1.9%
精密機器	1939.98	1,981.53	-2.1%
ガラス・土石製品	591.55	604.65	-2.2%
ゴム製品	1158.54	1,189.16	-2.6%
鉄鋼	296.76	306.07	-3.0%
パルプ・紙	620.93	640.52	-3.1%
海運業	307.89	317.99	-3.2%
非鉄金属	536.06	553.78	-3.2%
証券、商品先物業	534.06	553.31	-3.5%
空運業	549.97	570.87	-3.7%
輸送用機器	1332.68	1,403.42	-5.0%
通信業	1819.42	1,938.22	-6.1%
不動産業	543.52	581.80	-6.6%
東証株価指数 (TOPIX)	961.12	980.79	-2.0%
日経平均株価	9,788.13	9,999.79	-2.1%

(日経NEEDS F Qから農中総研作成)

相場の見通し (8/19~8/23)

前述のように、米国のイベントが終わるとともに、参加者が市場に戻って、経済のファンダメンタルズに目が向く展開となろう。

米国で先週発表された経済指標が景気の先行き鈍化を示唆するものとなるとともに、国内でも7月の小売売上高は不冴えであった。また、円高の可能性も残る。

今週は内外ともに重要指標の発表やイベント予定は少ないが、株式市場では、持ち合い解消売りの予想およびETF絡みの先物ヘッジ売りの噂がある。したがって、株式相場は、これらの売り圧力から薄商いの中、下落懸念が大きい。

これに対して、債券相場は、10年国債入札(発行予定額1.8兆円)が21日(水)にある。応札は低調という見方が強く、長期ゾーンの売り材料となりやすいが、小幅レンジの底固い動きが続こう。

(渡部 喜智)

(以上の文章中のデータについては、後添しているので参照されたい)

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所 2/14

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

(2008/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

主な出来事 (8 / 12 ~ 8 / 18)

月日	政治 財政	経済 金融	海外 その他
8月12日(月)	・隠れ高速道路といわれる、国土交通省が将来の高速道路ネットワークへの編入を見込んでいる自動車専用道路の実態が明らかに ・交通政策審議会の空港整備部会、民営化の議論を盛り込んだ中間報告取りまとめ	・ソニー・エリクソン、中国政府から、同国市場で事業を開始する許可を取得した、と発表(ロイター) ・日本ハム、ハム・ソーセージなど食肉加工品を4割減産することを明らかに(毎日報道) ・日銀、6ヶ月ぶりに景気判断を据え置きに	・米航空大手のUS航空、米連邦破産法11条の適用を申請
8月13日(火)	・内閣府、新方式を採用する4~6月期のGDP(国内総生産)統計を8月30日に公表すると発表	・東京都心部7月末時点のオフィスビル空室率、6年半ぶりに6%越え(三鬼商事)	・米通商代表部(USTR)、鉄鋼セーフガードに伴う特別関税の適用除外品として、日本製品4品目を含む37個別品目の追加措置を発表(毎日) ・米連邦準備制度理事会(FRB)公開市場委員会(FOMC)で、政策金利の据え置き。金融政策の運営姿勢を「中立型」から、「景気重視型」に。
8月14日(水)	・日本とフィリピンの両政府、関税障壁を撤廃する自由貿易協定(FTA)締結に向けた作業部会を10月上旬に設置し、検討を始めることで合意 ・日銀集計の全国129の銀行01年度決算、不良債権処理額が9.7兆円に達し、減損処理など株式関係の損失も過去最大の2.4兆円	・ヤマハ発動機、中国の2輪車メーカーに対し起こした商標権訴訟で勝訴 ・いすゞ自動車、経営再建策を正式に発表	・米証取委の「決算宣誓書」提出期限日、対象約700社のうち大半の企業が、期限の14日までに宣誓書を提出した模様 ・仏ビバンディ・ユニバーサル02年上半期の業績、純損益は123億ユーロ(約1.4兆円)の大幅赤字
8月15日(木)	・小泉首相、9月に訪米時に日米首脳会談を行うことに意欲示す	・ワールドフーズ(旧日清製菓)、横浜地裁に特別清算手続きを申請し、事実上倒産	・米航空業界第2位のユナイテッド航空の持ち株会社CEO、再建計画がまとまらない場合、破産する可能性を示唆(毎日)
8月16日(金)	・S&P社、ペイオフ全面解禁延期は邦銀にマイナスの影響という評価レポート発表	・大阪証券取引所、米ナスダックとの提携の解消を受け入れ、ナスダック・ジャパン市場を当面閉鎖へ	・米パソコン大手デル第2・四半期決算、純利益は5億0100万ドル ・ブッシュ米大統領、投資家優遇策など景気刺激策の検討を始めたことを明らかに ・米半導体大手、テキサス・インスツルメンツ、第3・四半期の総売上高は第2・四半期から約5%増加するとの見通し発表
8月17日(土)	・経済産業省、中小企業総合事業団の再保険原資に同事業団の別基金7500億円を流用する方針		
8月18日(日)		・日本ハム、創業者の大社義規会長が引責辞任する方向で最終調整に(毎日)	・ニューヨーク・タイムズ紙の報道で、イラン・イラク戦争時に米国はイラクの化学兵器使用を黙認した疑いが浮上

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所 3/14

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

Q2/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

(入札結果:価格競争入札のみ)

入札日	名称	発行予定額	応募額	割当額
8月14日(水)	政府短期証券(3週)	3.0兆円	695兆1,548.8億円	2兆9,987.3億円
8月15日(木)	割引短期国債(1年)	1兆5,000億円	315兆8,658.9億円	1兆4,999.8億円

今週の注目ポイント

月日	政治日程など	国内経済指標	海外経済指標
8月19日(月)	・ナスダック・ジャパンの清算について記者会見	・産業用大口電力指数(7月)	・米 景気先行指標総合指数(7月)
8月20日(火)			・米 貿易収支(サービス含む)(6月) ・英 マネーサプライ(7月) ・仏 貿易収支(サービス含む)(6月)
8月21日(水)		・第3次産業活動指数(7月)	・英 先行指数、一致指数(7月)
8月22日(木)	・道路関係四公団民営化推進委、集中審議(23日まで)	・貿易収支(7月) ・単身世帯消費動向調査(6月)	・英 小売売上高指数(7月)
8月23日(金)	・交通政策審議会航空分科会	・企業向けサービス価格指数(7月)	・独 4~6月期国内総生産(GDP) ・英 4~6月期国内総生産(GDP)

国債 短期証券の入札予定

入札日	入札対象国債
8月21日(水)	10年利付国債 1兆8,000億円
8月21日(水)	政府短期証券(3週) 3.0兆円
8月27日(火)	2年利付国債
8月28日(水)	政府短期証券(3週)
8月29日(木)	割引国債(3年)

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所 4/14

< 今週の指標分析 注目点 1 >

FRBのリスク評価は「景気低迷警戒」へ ～今後の「利下げ」には慎重対応～

8月13日のFOMCでは、FFレート誘導水準が1.75%と据え置かれたが、FRBのリスク評価は「中立」から「景気低迷警戒」に変更された(図)。言い換えれば、FRBが現時点で経済が内包するリスクに対する認識は、物価安定、経済の持続的成長という二つの目標にかかるリスクをバランスをもってみていくから「主として経済の弱さを引き起こすリスクを重視する」に変更となった。

今回FOMCの声明文で注目されるのは、FRBの経済に対する見方に明らかな変化がみられたことである。1ヶ月程前にあたる7月16日のグリーンSPAN議長証言では、「米国経済の基礎的条件は持続的で健全な成長に戻りつつある。在庫や資本財の不均衡は概ね解消されているように見受けられる。生産性の上昇は非常に強い。」という表現があった。しかし今回の声明文では、「今年の春から現れていた全般的な需要の弱さが、株式市場の弱さと、企業会計報告・企業統治問題に関する不透明感の高まりにより相当程度長引いている」という表現があり、景気の現状についての見方はより厳しくなっている。

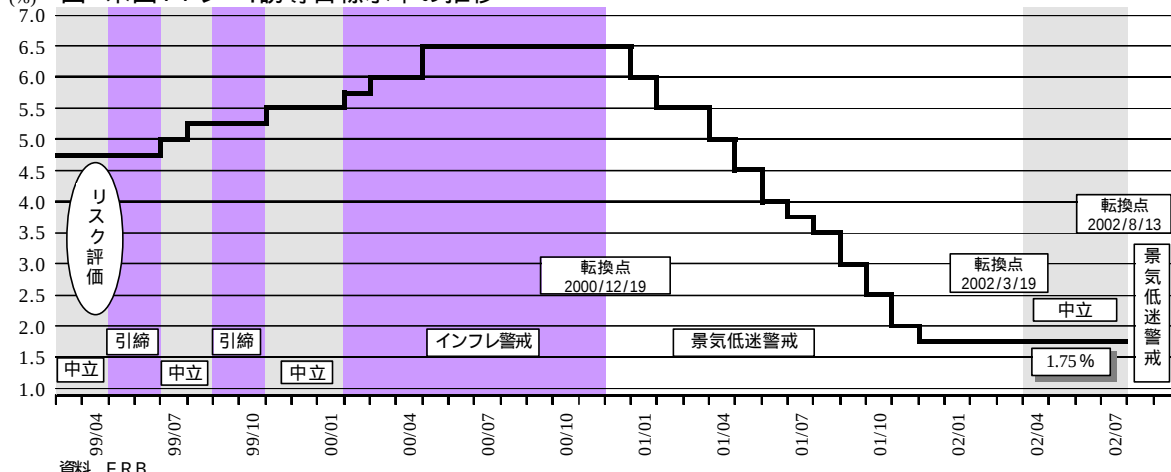
この1ヶ月の間にFRBが経済に対する認識を見直すに至った背景は、株価下落そのものではなく、むしろそれが経済にダメージを及ぼす兆候が現れたためである。企業の景況感を示すISM指数の下落(製造業は6月: 56.2→7月 50.5、非製造業は6月 57.2→7月 53.1)や、消費者信頼感指数の下落(6月 106.3→7月 97.3)は、株価下落の実体経済への悪影響の可能性を示唆している。

米証券会社を中心に、「FRBの次のステップは利下げ」との見方が強まっている。確かに、FRBが前述のとおり景気に対する認識を見直したことは、利下げの可能性が以前より高まったことを意味している。

但しFRBが直ちに利下げに踏み切るかという点、話はそれほど単純ではない。昨年の総計4.75%に及ぶ利下げ効果の評価や今後の金融政策の自由度について、総括しておく必要がある。これまでの金融緩和効果は、モーゲージ金利低下による住宅投資活発化、ホームエクイティローンに付随した個人消費活発化というところに端的に現れた。足下では、今後の景気回復力やインフレ圧力の弱さを読み込んで、モーゲージ金利のベースとなる長期国債利回りは着実に低下しており、これが実質的な金融緩和効果をもたらしている。なお現在のFFレート誘導水準1.75%には、テロ事件直後の合計1%の緊急利下げが反映されており、50年ぶりの低金利という超緩和状態が既に9ヶ月続いている。ゼロ金利は目前にあり、仮に昨年のテロ事件のような通常想定しない事態が発生した場合の、緊急利下げ余地はかなり狭くなっている。

FRBは利下げを視野に入つつも、今後発表される経済指標が景気回復の流れに沿っているか、流れに変調があるかを見極めながら、実際の利下げには慎重な姿勢を維持するであろう。(永井 敏彦)

図 米国FFレート誘導目標水準の推移



資料 FRB

(注) リスク評価は、物価の安定と景気拡大の維持という長期的な二つの政策目標を追求していくうえで、現存する「リスク」に対する連邦公開市場委員会(FOMC)の見方を示したものである。

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



< 今週の指標分析・注目点2 >

設備投資動向の鍵を握る電気機械の動向

6月の製造工業稼働率は、前月比で▲1.0%となり、3ヵ月ぶりの低下となった。5月に+3.8%と大きく上昇した反動もあると考えられるが、前年同月比でも▲0.9%と2ヶ月ぶりの低下。

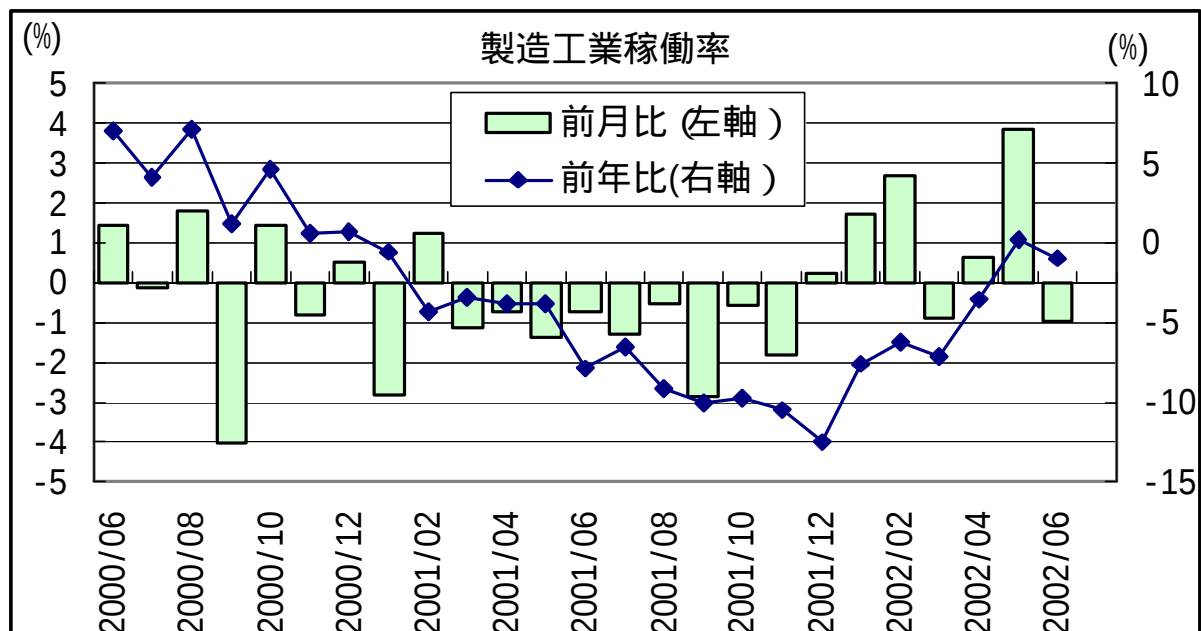
輸送機械が前月比▲4.8%、電気機械が▲3.4%と落ち込み、一般機械は+1.5%となった。

6月は、同時に発表された鉱工業生産(確報)も前月比▲0.2%と5ヵ月ぶりに前月を下回り、生産者出荷(同)も▲2.1%と7ヶ月ぶりにマイナスとなるなど、生産部門は一服した。外需に不透明感が増していることなどが影響していると考えられるが、鉱工業生産は7月前月比+1.6%、8月+1.8%とまだ増加が見込まれているので、ここで鉱工業生産が腰折れした可能性は少ないであろう。

しかし、製造工業稼働率とともに設備投資の先行指標となっている機械受注が7~9月期に前期比マイナスが見込まれていることと合わせて、設備投資の回復力は強いとはいえない。

特に、一時は半導体や液晶ディスプレイの価格が上昇するなど外需を中心に急速な回復を見せた電気機械産業は、国内外でパソコンなどの需要回復に一時の力強さが見られなくなり、一部の在庫が再びふくらんでいる。このため、6月の電気機械は生産、出荷、稼働率がともに低下し、在庫率が前月比+5.4%と半年ぶりに増加に転じた可能性がある。

電気機械が民間設備投資に与える波及効果は大きいと、今後の電気機械の需要、生産動向が設備投資の先行きを握る鍵となろう。(名倉賢一)



生産・出荷・在庫指数より農中総研作成

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所 6/14

商品市況の上昇の持続性 = CRB指数の動向

CRB指数は、米国の物価変動を把握するための重要な商品指数であり、世界的にも原材料市況のデータとして注目される。エネルギー（3品目）、穀物（3品目）、工業品（2品目）、家畜（2品目）、希少金属（3品目）、ソフト（4品目）の17品目を対象にしている。

CRBの全体指数は、2001年10月22日を底に上昇基調にある。

個々に見ると、それぞれの商品をめぐる状況、事情から相違した動きとなっている。

エネルギー指数が2002年1月を底に急上昇した後、横ばい推移していたが、対イラク攻撃の可能性が想定される中、石油製品在庫の減少を背景に、原油先物が29ドル台に乗せるなど足元で再び上昇している。

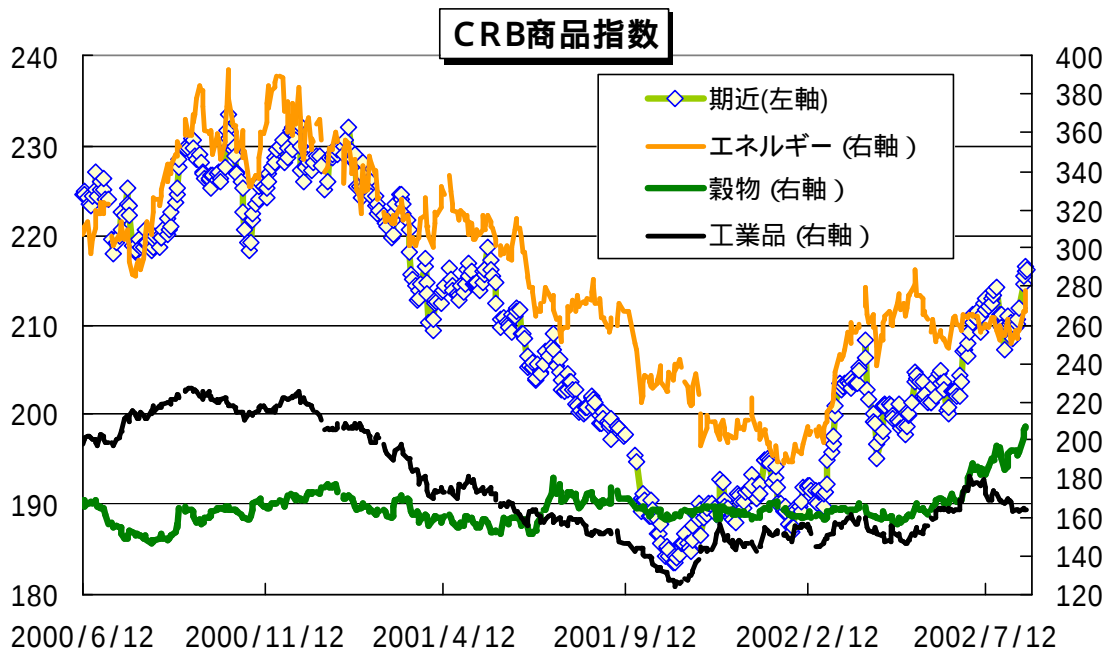
また、穀物指数も上昇している。これは、世界的な異常気象が広がり、干ばつなどから作物収穫高の減少予測が台頭し、天候相場の展開となったことによる。

これに対して、非鉄等の工業品相場が下落しているのは、世界的な経済好転が一服し、先行き懸念が台頭していることが大きい。

さて、商品指数の上昇は、わが国にとっても現地通貨建て輸入物価の上昇を通じて、デフレ緩和の要因となる可能性があるが、今後の上昇の持続性について、疑問視する見方が多い。

穀物の異常気象による収穫減は、既に相場に織り込まれてきたとみられ、今後は需要動向に目が行くこととなる。また、イラクへの攻撃の可能性についても、実際に戦闘開始とならない限り、買い上げる材料は少ない。

(渡部喜智 田口さつき)



(資料) Bloombergより農中総研作成

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

Q2/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

最近の金融市場関連データ一覧

(調査第二部 国内経済金融班)

	長期金利				短期金利				外国為替				内外株価指数					商品価格		
	新発10年物国債利回り	債券先物10年物期近価格	債券先物10年物期近利回り	金利スワップレート5年物(円・円)仲値	無担保コール翌日物	TIBORユーロ円3ヵ月	LIBOR円・3ヵ月	TIBORユーロ円6ヵ月	円・ドル銀行間直物17:00	円・ドル相場銀行間直物中心値	N.Y.日本円・終値仲値	N.Y.ユーロ・終値仲値	ロンドンユーロ(米ドル)仲値	日経平均(225種)	TOPIX終値	JASDAQ指数	NYダウ工業株30種平均終値	ナスダック株価指数	NY金先物価格・期近	NY WTI原油先物価格・期近
02/6/28	1.315	139.06	1.505	0.45	0.002	0.0908	0.0713	0.1008	119.215	119.45	119.45	0.9915	0.987	10,621.84	1,024.89	49.52	9,243.26	1,463.21	313.9	26.86
02/7/1	1.345	138.65	1.539	0.48	0.001	0.0908	0.0719	0.1008	119.560	119.50	119.70	0.9915	0.988	10,595.44	1,028.63	49.70	9,109.79	1,403.80	314.4	26.81
02/7/2	1.330	138.77	1.529	0.47	0.002	0.0908	0.0731	0.1008	120.345	120.00	119.85	0.9860	0.986	10,622.32	1,029.05	49.57	9,007.75	1,357.82	313.2	26.77
02/7/3	1.320	138.77	1.529	0.47	0.001	0.0908		0.1008	120.400	120.15	119.80	0.9810		10,812.30	1,044.21	49.84	9,054.97	1,380.17	311.3	26.80
02/7/4	1.310	138.97	1.513	0.46	0.002	0.0908		0.1008	120.225	120.25				10,632.81	1,033.31	49.81				
02/7/5	1.315	139.03	1.508	0.46	0.001	0.0908	0.0744	0.1008	120.555	120.40	120.40	0.9740	0.973	10,826.09	1,042.95	49.87	9,379.50	1,448.36		
02/7/8	1.320	139.03	1.508	0.46	0.002	0.0908	0.0719	0.1008	118.860	119.20	118.55	0.9905	0.987	10,769.20	1,033.99	49.90	9,274.90	1,405.61	312.5	26.07
02/7/9	1.315	139.00	1.510	0.47	0.002	0.0908	0.0713	0.1008	118.575	118.75	118.05	0.9935	0.993	10,960.25	1,050.14	49.86	9,096.09	1,381.12	316.5	26.09
02/7/10	1.290	139.27	1.488	0.45	0.002	0.0908	0.0738	0.1008	117.840	118.18	117.65	0.9885	0.989	10,752.66	1,037.26	49.62	8,813.50	1,346.01	315.1	26.77
02/7/11	1.270	139.38	1.479	0.44	0.002	0.0908	0.0738	0.1008	117.395	117.70	116.90	0.9890	0.990	10,485.74	1,017.17	49.43	8,801.53	1,374.43	317.6	26.83
02/7/12	1.290	139.30	1.486	0.45	0.002	0.0908	0.0725	0.1008	116.715	116.90	116.85	0.9915	0.990	10,601.45	1,019.51	49.56	8,684.53	1,373.50	315.9	27.48
02/7/15	1.270	139.56	1.464	0.43	0.002	0.0908	0.0738	0.1008	116.185	116.30	116.40	1.0035	1.006	10,375.15	1,000.48	49.32	8,639.19	1,382.62	319.9	27.07
02/7/16	1.265	139.56	1.464	0.43	0.001	0.0900	0.0713	0.1008	116.335	116.25	115.85	1.0120	1.009	10,250.42	984.53	49.07	8,473.11	1,375.26	317.5	27.75
02/7/17	1.270	139.63	1.458	0.42	0.002	0.0900	0.0706	0.1008	116.225	115.95	116.30	1.0070	1.008	10,296.02	988.10	48.45	8,542.48	1,397.25	317.7	27.88
02/7/18	1.265	139.64	1.458	0.42	0.002	0.0900	0.0719	0.1008	116.985	116.58	116.60	1.0110	1.009	10,498.26	1,010.12	48.55	8,409.49	1,356.95	317.1	27.57
02/7/19	1.260	139.63	1.458	0.42	0.002	0.0900	0.0719	0.1008	115.915	115.90	115.85	1.0115	1.015	10,202.36	989.71	48.20	8,019.26	1,319.15	323.9	27.83
02/7/22	1.265	139.58	1.462	0.43	0.002	0.0900	0.0725	0.1008	116.385	116.15	116.30	1.0085	1.007	10,189.01	991.44	47.79	7,784.58	1,282.65	323.5	26.60
02/7/23	1.300	139.25	1.490	0.45	0.002	0.0900	0.0719	0.1008	117.410	116.95	117.55	0.9885	0.992	10,215.63	992.83	47.88	7,702.34	1,229.05	312.6	26.31
02/7/24	1.325	139.10	1.502	0.46	0.002	0.0900	0.0688	0.1008	117.405	117.50	116.75	0.9955	0.993	9,947.72	976.63	47.58	8,191.29	1,290.23	311.4	26.87
02/7/25	1.325	139.16	1.497	0.45	0.002	0.0900	0.0669	0.1008	116.520	116.35	116.40	1.0045	1.002	9,929.91	967.99	47.74	8,186.31	1,240.08	309.7	26.77
02/7/26	1.335	139.00	1.510	0.46	0.002	0.0900	0.0675	0.1008	117.370	117.40	118.80	0.9870	0.990	9,591.03	943.07	47.22	8,264.39	1,262.12	303.3	26.54
02/7/29	1.360	138.85	1.523	0.47	0.002	0.0900	0.0681	0.1008	119.110	119.18	119.70	0.9805	0.979	9,666.67	951.91	46.97	8,711.88	1,335.25	302.4	26.55
02/7/30	1.345	138.99	1.511	0.46	0.002	0.0875	0.0669	0.1000	119.740	120.12	120.20	0.9835	0.987	10,003.72	974.96	47.27	8,680.03	1,344.19	303.7	27.36
02/7/31	1.315	139.35	1.481	0.45	0.001	0.0858	0.0681	0.1000	119.815	119.85	119.90	0.9775	0.981	9,877.94	965.00	47.50	8,736.59	1,328.26	305.2	27.02
02/8/1	1.305	139.36	1.481	0.44	0.002	0.0833	0.0669	0.1000	119.815	119.75	119.30	0.9845	0.985	9,793.51	958.59	47.37	8,506.62	1,280.00	306.0	26.47
02/8/2	1.300	139.60	1.461	0.43	0.001	0.0825	0.0669	0.1000	118.940	118.95	118.95	0.9865	0.987	9,709.66	955.81	47.09	8,313.13	1,247.92	309.0	26.84
02/8/5	1.280	139.93	1.434	0.41	0.002	0.0817	0.0663	0.0992	119.190	118.80	119.70	0.9800	0.985	9,704.93	955.36	46.62	8,043.63	1,206.01	309.6	26.58
02/8/6	1.300	139.80	1.444	0.42	0.002	0.0817	0.0656	0.0983	120.455	119.80	120.75	0.9660	0.964	9,501.02	939.42	45.89	8,274.09	1,259.55	307.3	27.17
02/8/7	1.270	140.00	1.428	0.41	0.002	0.0817	0.0675	0.0983	120.765	120.85	120.30	0.9755	0.971	9,834.40	962.28	46.36	8,456.15	1,280.90	316.1	26.50
02/8/8	1.270	139.96	1.431	0.41	0.002	0.0808	0.0663	0.0975	120.795	120.15	121.00	0.9670	0.969	9,799.57	959.98	46.24	8,712.02	1,316.52	312.2	26.67
02/8/9	1.260	140.16	1.415	0.41	0.002	0.0800	0.0656	0.0950	120.820	121.05	120.10	0.9705	0.973	9,999.79	980.79	46.47	8,745.45	1,306.12	316.0	26.86
02/8/12	1.255	140.25	1.408	0.40	0.002	0.0792	0.0663	0.0942	119.685	119.90	119.05	0.9790	0.978	9,747.82	959.90	46.48	8,688.89	1,306.84	315.8	27.86
02/8/13	1.285	140.05	1.424	0.42	0.001	0.0792	0.0681	0.0942	119.240	118.90	118.45	0.9835	0.978	9,688.61	954.88	46.29	8,482.39	1,269.28	315.9	27.90
02/8/14	1.270	140.40	1.396	0.40	0.001	0.0783	0.0675	0.0942	117.345	117.05	117.30	0.9800	0.987	9,638.41	952.55	46.18	8,743.31	1,334.30	313.5	28.15
02/8/15	1.265	140.38	1.397	0.40	0.002	0.0775	0.0675	0.0933	116.905	117.55	117.35	0.9820	0.980	9,795.57	961.74	46.38	8,818.14	1,345.01	316.1	29.06
02/8/16	1.280	140.30	1.404	0.40	0.002	0.0767	0.0675	0.0925	117.590	117.60	117.70	0.9850	0.982	9,788.13	961.12	46.49	8,778.06	1,361.01	315.4	29.33

(日経NEEDS F Qから農中総研作成ホームページ上の「weekly 金融市場」で更新されます)

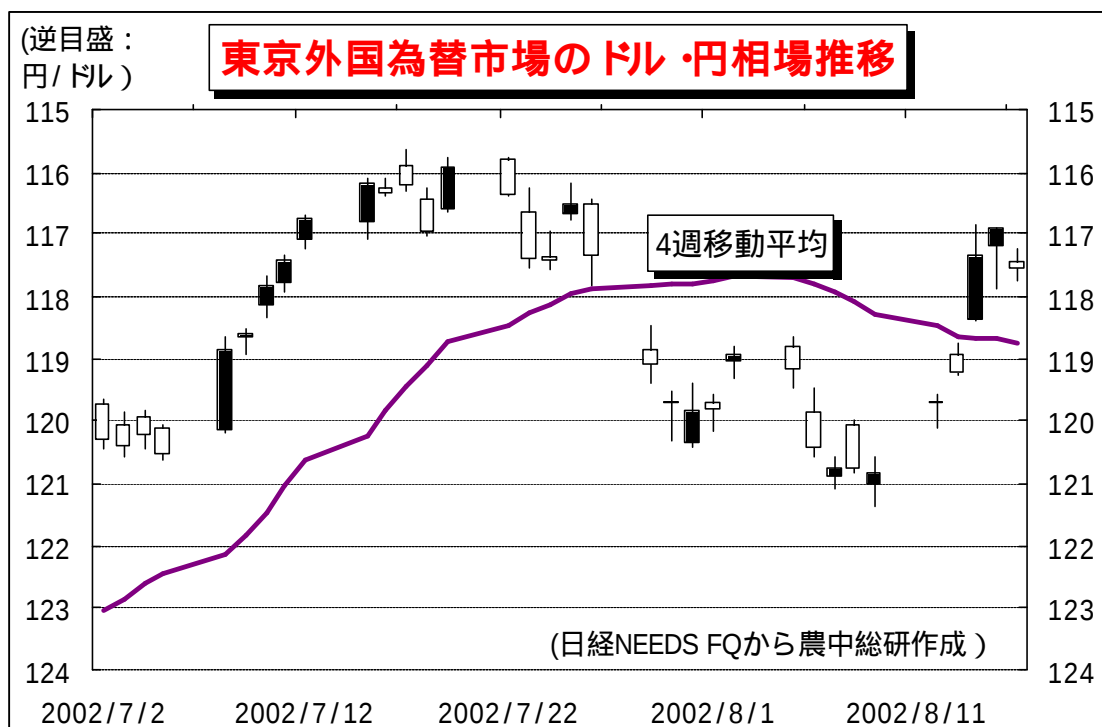
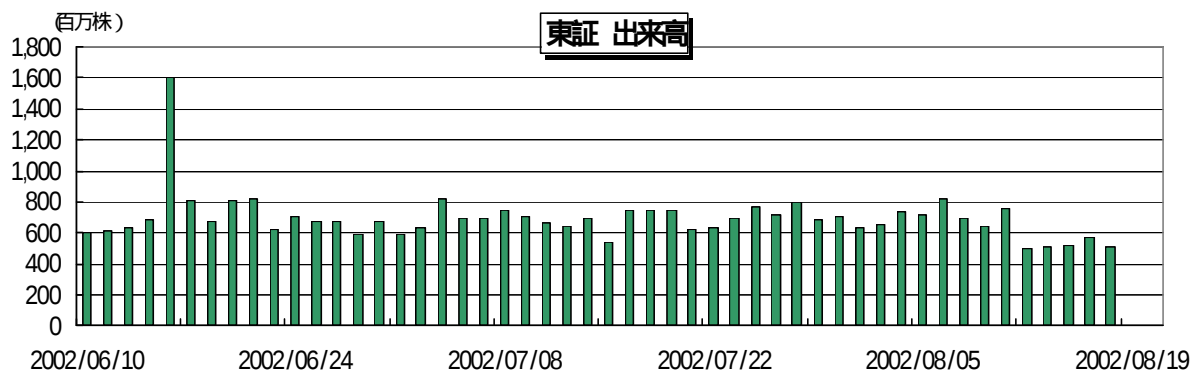
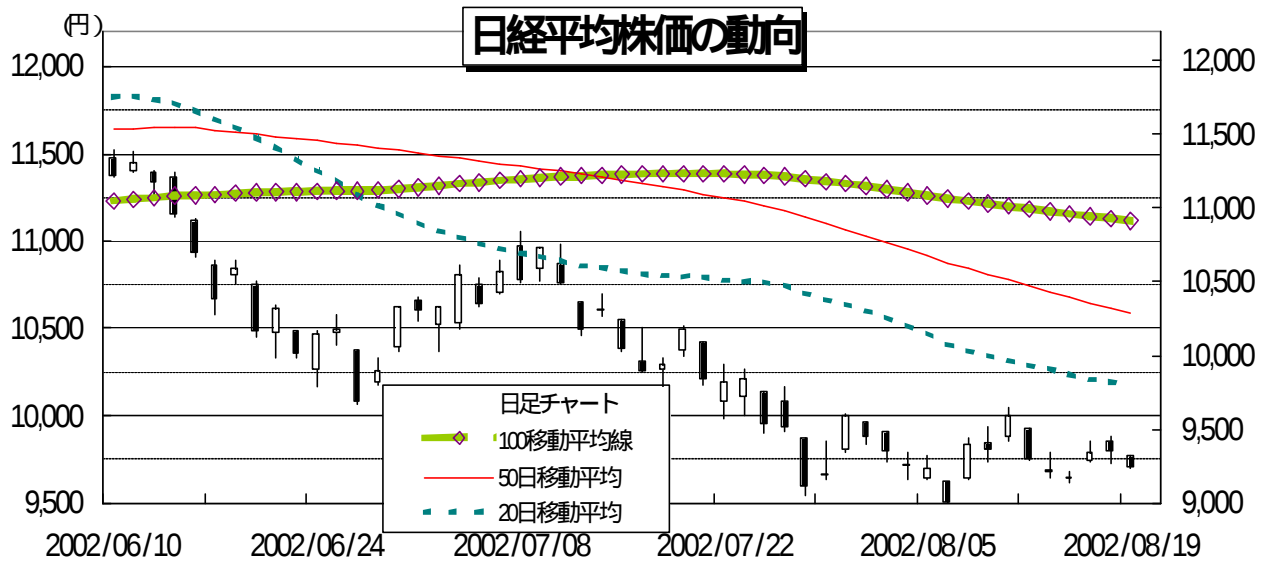
無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

Q2/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)



無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

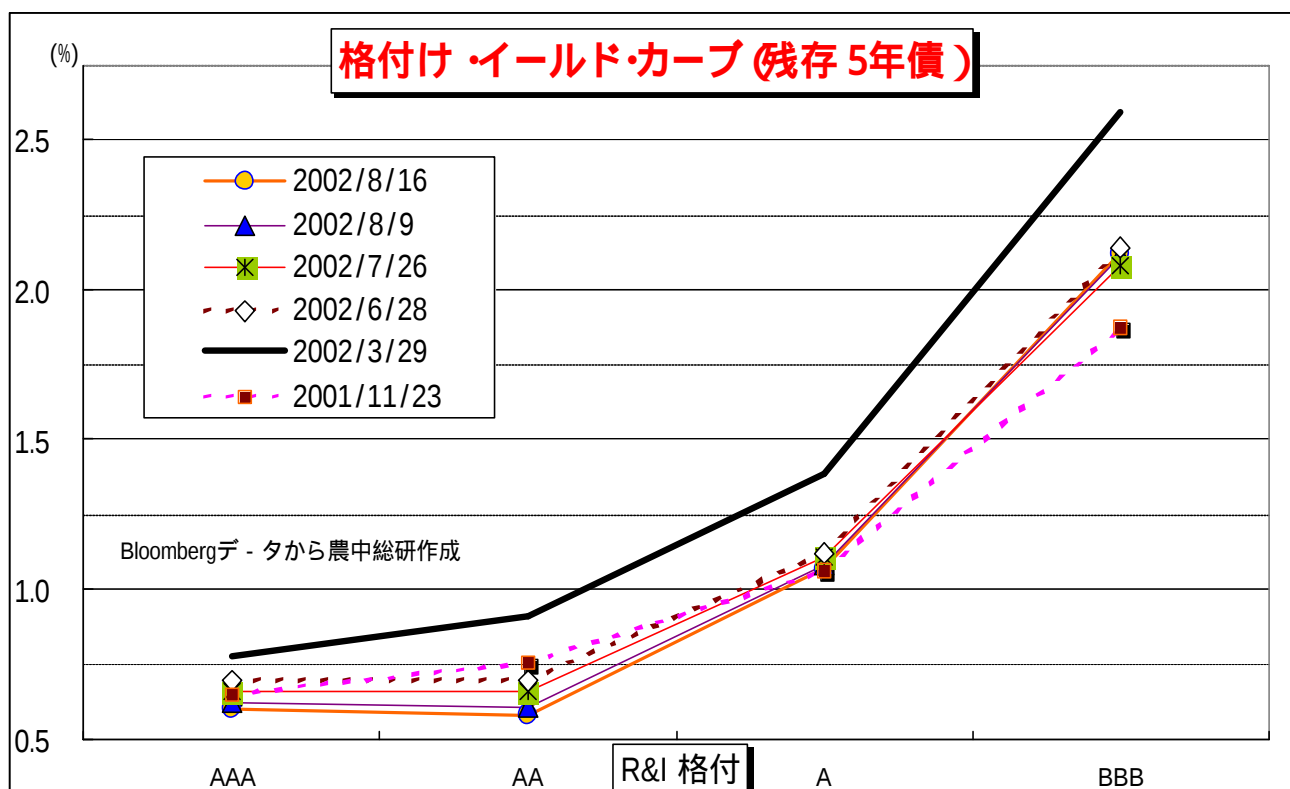
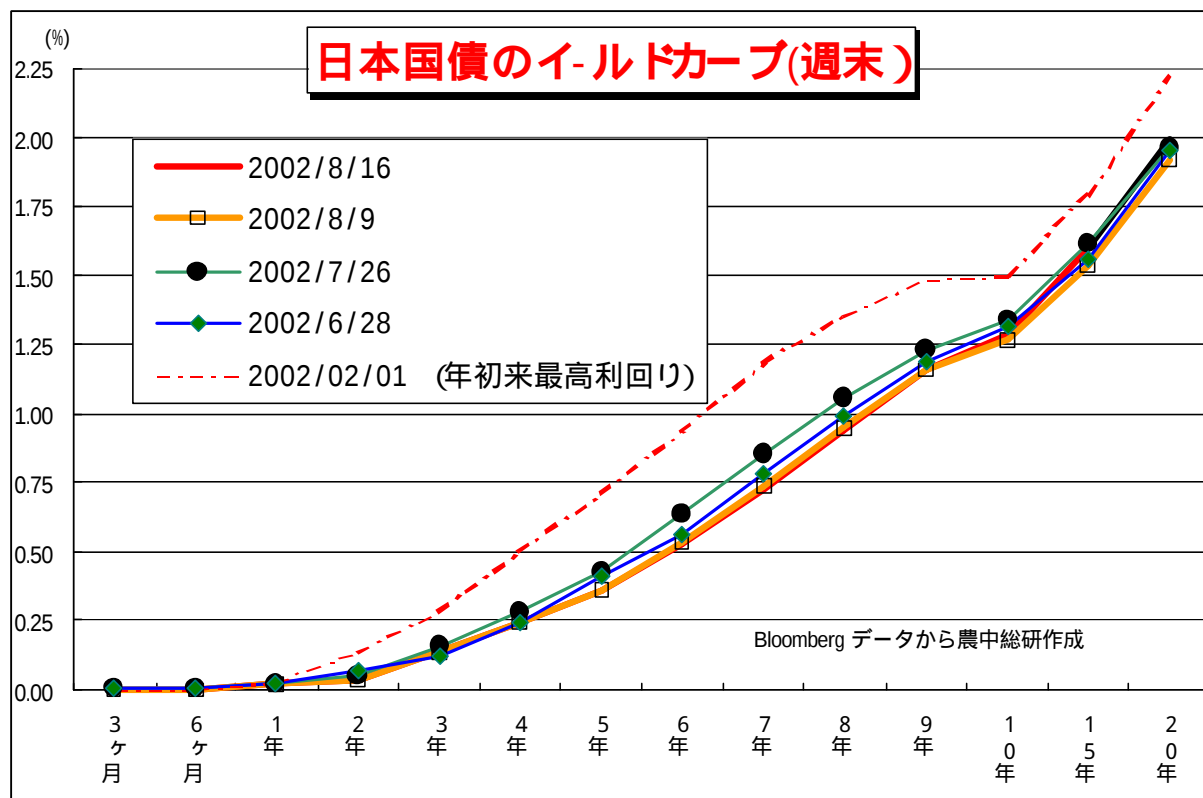
ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所 9/14

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

Q2/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

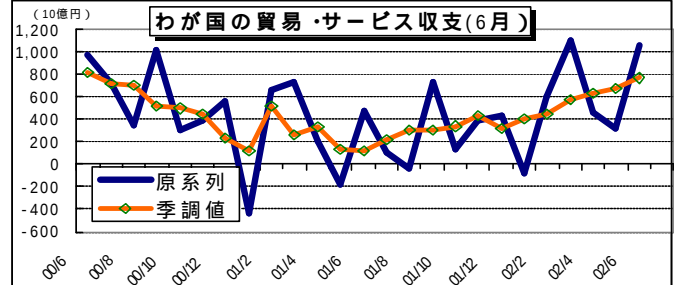
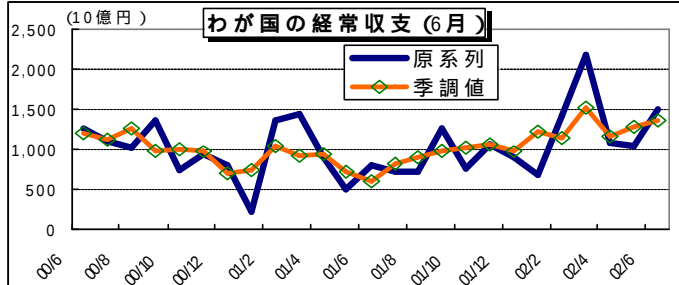


無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp

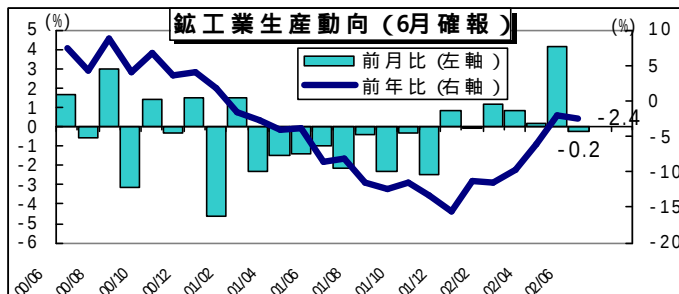
内外経済指標の動向

<国内>

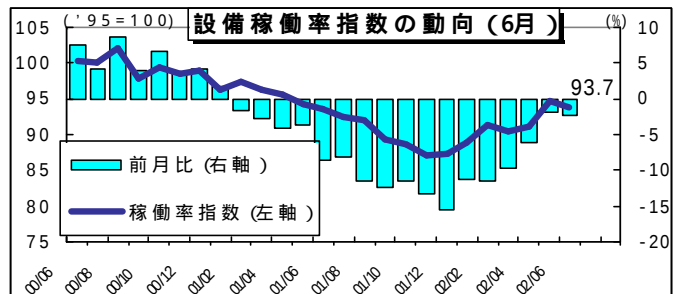


貿易黒字拡大のほか、サービス収支の赤字幅縮小が継続し経常黒字は1,507兆円で前年比+90%増。前月比+7.6%増。

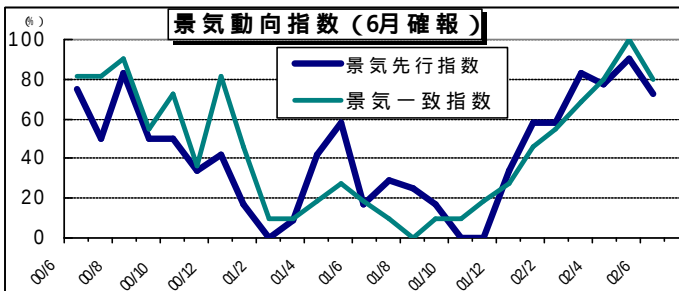
貿易収支は、前年同月比+59.0%、前月比+8.2%の増加。



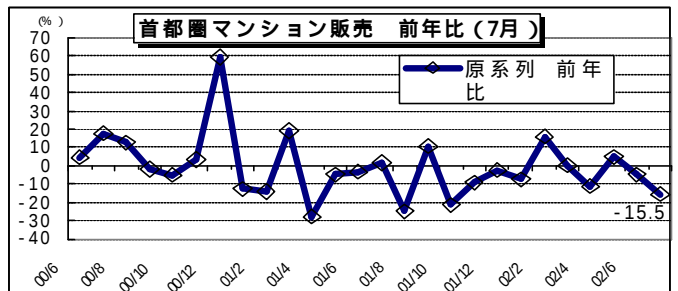
生産の前月比は速報: ▲0.7%から▲0.2%へ上方修正、出荷は▲2.2%から▲2.1%へ小幅改訂。在庫は▲1.5%減。この結果、在庫率は+2.7%から+3.3%へ上方修正。



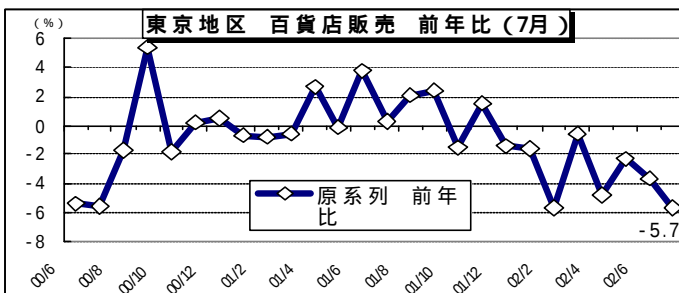
稼働率は94.6から93.7へ前月比▲1.0%低下。業種別には、前月上昇幅が大きかった輸送機械、電気機械等が低下、逆に精密機械、化学が上昇。



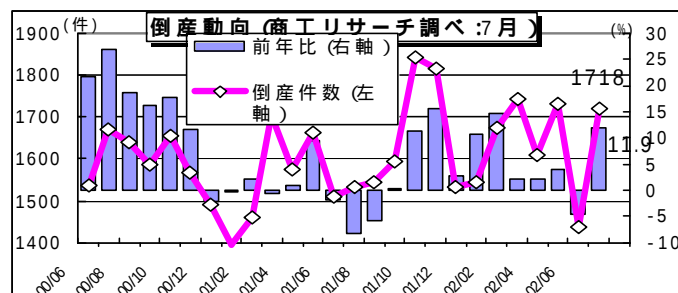
一致指数が80.0%、速報値(77.8%)から上方修正。先行指数も72.7%、速報値(70.0%)から上方修正。



2002年7月の首都圏販売戸数は前年比▲15.5%減の7793戸。契約率は75%で7割キープしているが、郊外マンションを中心に売れ行き鈍化。



7月は▲5.7%減で8ヶ月連続の前年割れ。夏物衣料の動きが引き続き鈍く▲4.1%減、身の回り品も2ヶ月連続減少(▲2.7%)。食料品は中元前倒しの反動も加わり、▲5.3%減。



商工リサーチ調べの7月企業倒産件数は前年比+12%増え、7月としては戦後最多。負債総額も同+33%増。

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp

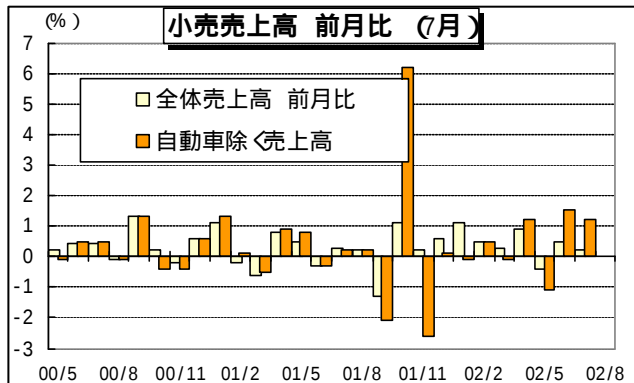


農林中金総合研究所

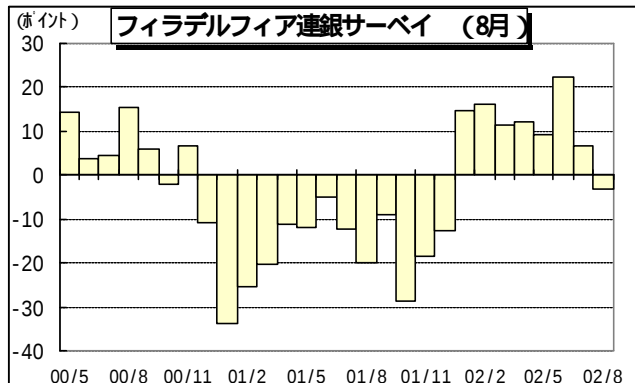
Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

(2/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

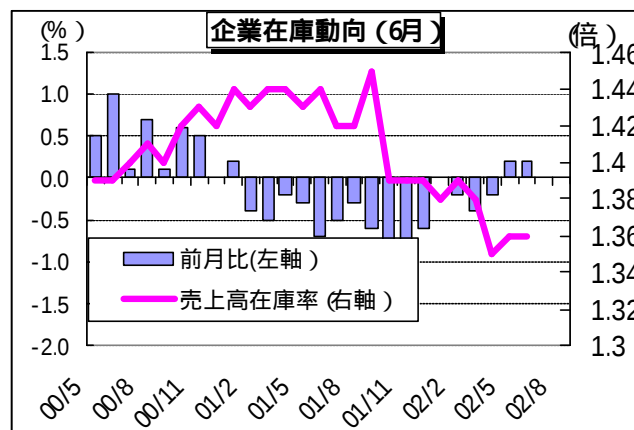
<米国>



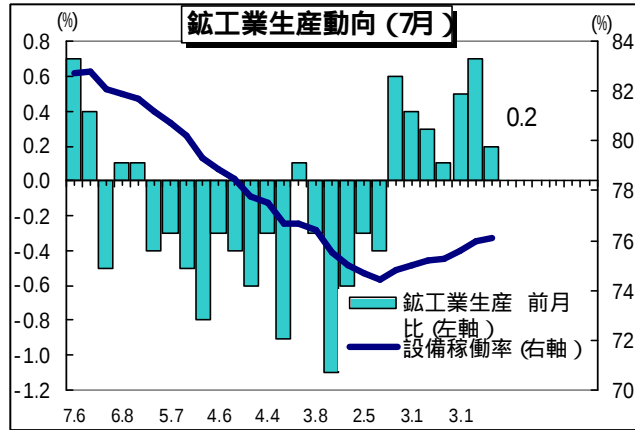
ほぼ市場予想どおりだが、18.5百万台の販売台数だった自動車販売を除くと、6月の+0.4%から+0.2%へ伸び低下。



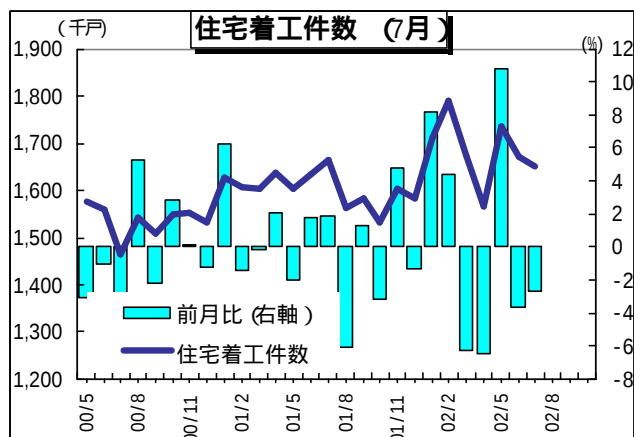
8月は予想(+8ポイント)に反し、今年初めてマイナスとなる▲31ポイント。株式市場の低迷が需要の減少に結びつき、売上が低迷している。



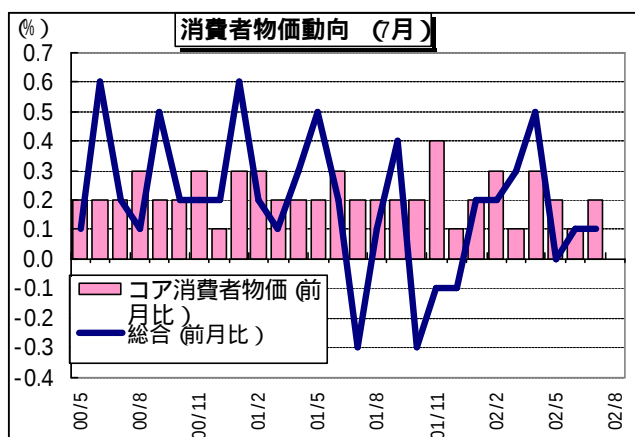
2ヶ月連続の前月比プラス。売上高在庫率は1.36倍で横ばい推移。



事前の横ばい予想に対して、小幅ながら上回った(前月比:+0.2%)



7月は、横ばいの予想に対し、2ヶ月連続のマイナスとなる前月比▲2.7%の年率164万9千戸。民間新築住宅のペースが鈍化傾向にある。



7月は、総合は前月比+0.1%、コア(食品・エネルギー除く)は+0.2%。予想は総合、コアともに+0.2%。航空運賃、衣類の値下げが物価上昇を抑制。

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

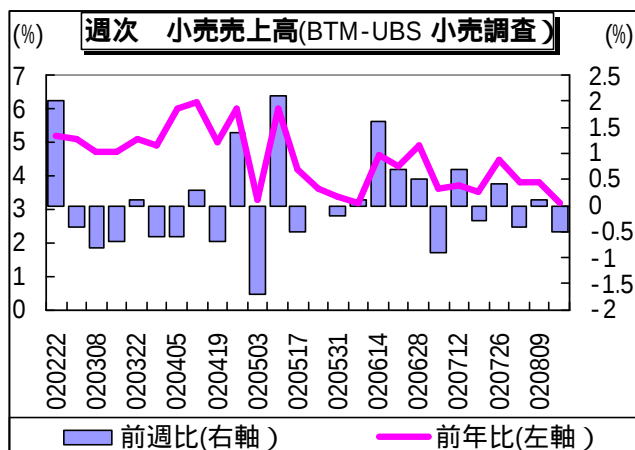
ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



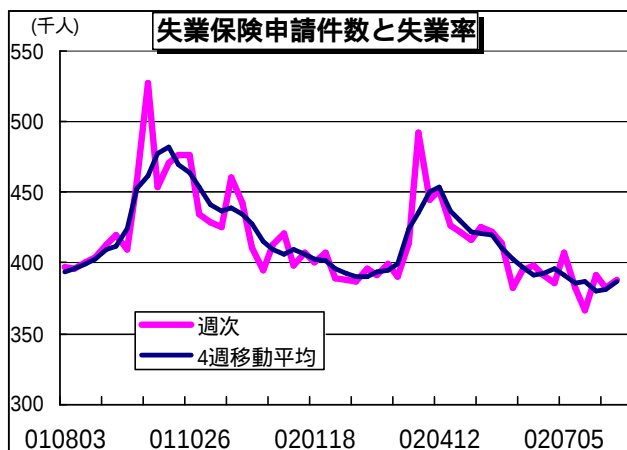
農林中金総合研究所

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

(02/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)

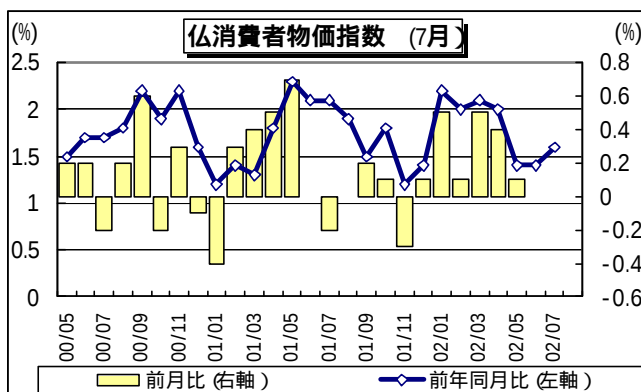


8月4-10日は店舗改装工事も加わり、前週比で▲0.5%減で前年同週比でも+3.2%へ低下。

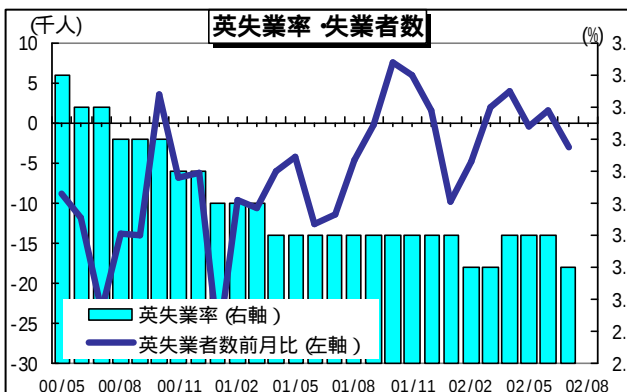


8月10日週は、38万8千件で、前週比6千件増加。予想(38万件)を上回った。雇用改善は足踏み。また、継続受給者数は3576千件で73千件増加。

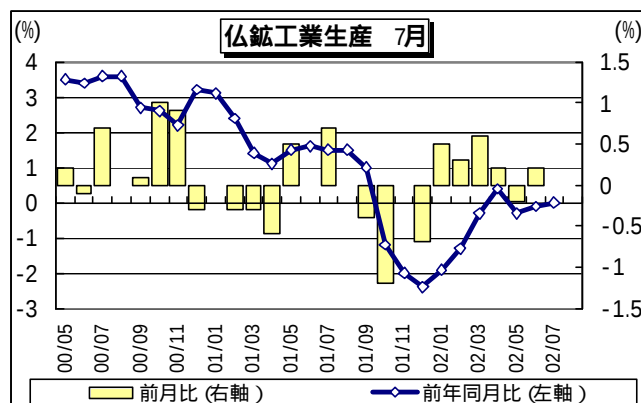
< 欧州 >



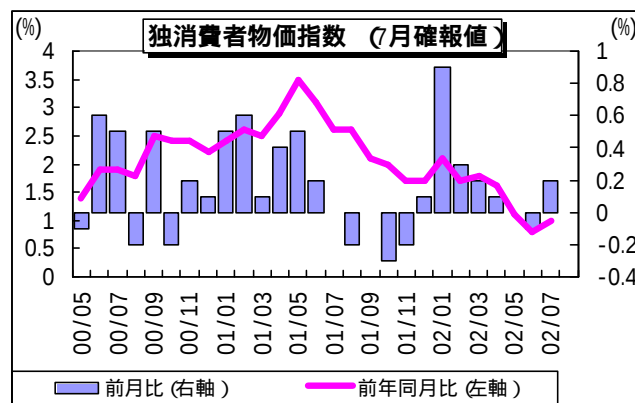
7月は、前月比で予想(▲0.2%)を上回る横ばい、前年同月比で予想(+1.4%)を上回る+1.6%。



7月の失業者数は前月比より3100人減少し、失業率は3.1%へ低下した。



6月は前月比+0.2%(予想+0.4%)、前年同月比▲0.1%(予想+0.5%)で予想を下回った。自動車(GDPの4%)や電機は上昇したが、衣類(GDPの1.2%)や靴類は低下した。



7月の確報値は、前月比+0.2%、前年同月比+1.0%で、速報値と同じ。

無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

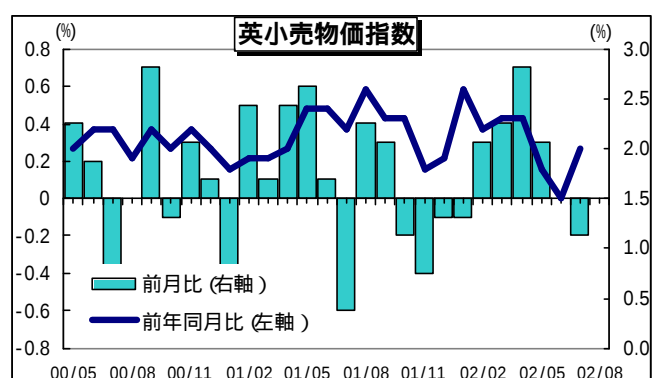
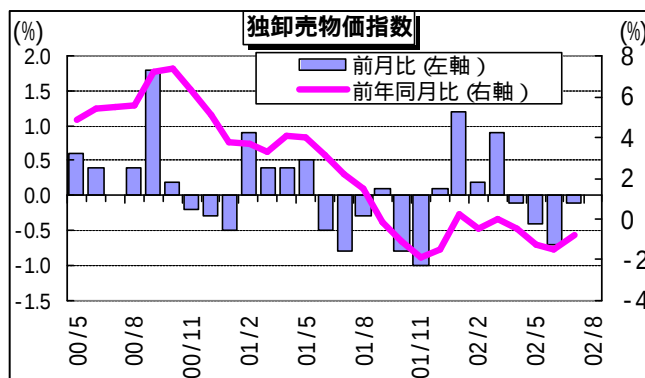
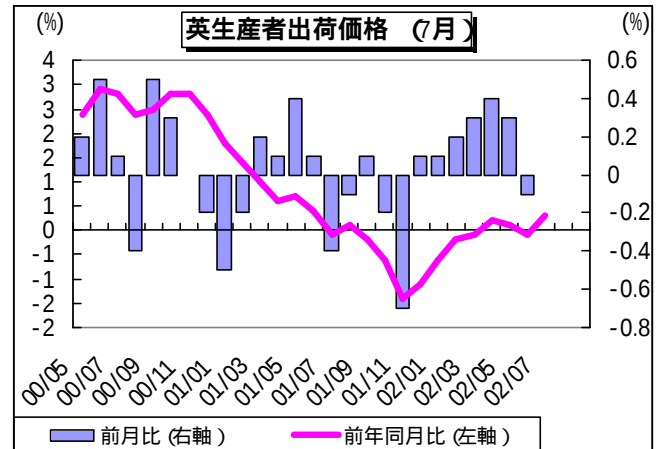
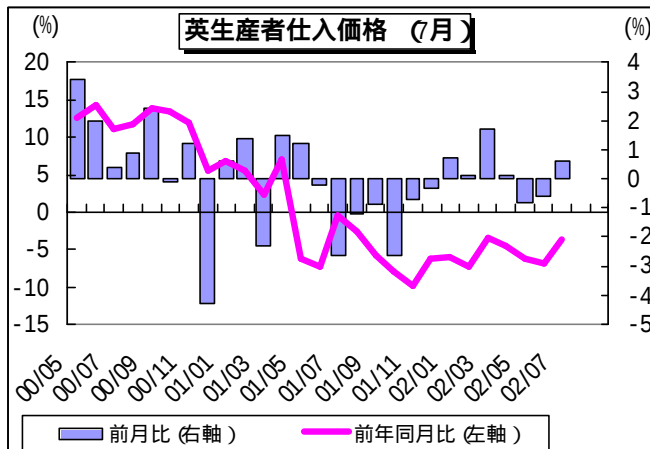
ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所

Weekly 金融市場 Today's Viewpoint

(02/08/19) 農林中金総合研究所 調査第二部 国内経済金融班 (全14ページ)



無断転載を禁ず。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等はご自身の責任でお願いいたします。

ご意見・ご感想はこちらまでお願いします。 taguchi@nochuri.co.jp



農林中金総合研究所